

情報通信審議会郵政政策部会
関係団体ヒアリング資料

2015年7月3日

全国地域婦人団体連絡協議会

現在のユニバーサルサービスの範囲・水準について どのように認識・評価しているか

- 現在、日本郵便が提供しているユニバーサルサービスの範囲及び水準については、十分なものであると認識している。
- 人口減少社会にあって、地方の金融機関の店舗の統廃合が進み、自宅からタクシーでお金の引き出しに出かけなければならないところも出てきている。
- そんな中で郵便局の存在は大変に大きくなり、地域の拠点ともいえる存在である。
- また、郵便・物流関係においても、適切にサービスが提供されていると評価している。

日本郵便に期待するユニバーサルサービスの範囲・水準

- 現在のサービスの範囲・水準を維持すべきだと考えます。
- 情報の格差をなくすことは、行政の責務であり、それぞれの地方の実情に応じたサービス・技術での対応が求められます。

将来、ユニバーサルサービスの範囲・水準を見直す場合、どの程度まで許容できるのか。

- 郵便は国民生活に欠かせない基本的な通信手段です。現在のサービス水準の維持を強く望みます。
- 戸別配達には必須だと考えます。ますます高齢化する社会において、都市部、地方に関わらず、戸別配達に付随した安否確認などむしろ新たな役割が期待されています。
- 郵便局自体を地域の拠点と考え、新たなサービスを付加することにより、地方を元気にする取り組みが展開できると考えます。
- 今後、ユニバーサルサービスコストがより高まることは十分に予測されますが、範囲や水準の見直し、或いは郵便料金の値上げでは、利用者を疲れさせるだけであり、現在ある様々なリソースを積極的に利用した新たなサービス展開で、ユニバーサルコストの捻出の努力をしていただきたいと考えます。
- ユニバーサルサービスの維持に必要なコストについて、国民（消費者）に対して、丁寧な説明が必要です。